

平成25年度「福井新々元気宣言」推進に係る施策の実施結果 (平成26年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成25年4月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成26年3月

教育長 林 雅 則

I 総括

1 福井型18年教育の推進

- ・ 幼児教育支援センターを中心にした、保育所・幼稚園へのアドバイザーの巡回訪問や小学校の指導内容等を学ぶ研修会の開催等と併せて、保・幼・小の円滑な接続のためのカリキュラムの実証研究を県内5小学校区において実施しました。また、家庭教育力を高めるため、子育てやしつけ等を気軽に学べるワークシートを活用した出前家庭教育講座を開催しました。
- ・ 全国学力・学習状況調査や県学力調査（SASA）実施後直ちに、調査問題と課題を分析した「授業改善事例集」や「リトライプリント」を作成して早期に調査結果を学校にフィードバックし、小・中学校における教員の授業改善と児童生徒の課題克服を進めました。
- ・ 芸術教育については、推進校に弦楽器の貸与やプロの演奏家の派遣を行うことで音楽活動を充実させて、演奏会などの発表につなげました。また、古典学習については、全ての小学校で百人一首に、中学校では漢詩・漢文に親しむ活動をそれぞれ取り入れるなど、充実を図りました。
- ・ 平成27年4月に導入する併設型中高一貫教育については、県内5地区で説明会を開催するとともに、カリキュラム編成などの検討や必要となる講義室や技術室等の整備に向けた設計を行いました。
- ・ 今春開校する坂井高等学校における新たなカリキュラムに必要な、施設・設備の整備を着実に進めたほか、各高校において企業と連携した現場実習や技術指導を拡大するなど、職業教育の充実を図りました。
- ・ 本県オリジナル英語教材「福 - イングリッシュ」を各高校で活用して、ALTとのティーム・ティーチング等に取り組んだほか、高校英語を取り入れた学習を中学校から行ったり、映像や歌で英語に親しむ授業を小学4年生から始めるなど、本県独自の使える英語教育を推進しました。

2 高い教育水準を支える教員の授業力の向上

- ・ 教員の採用方法を、従来の一括採用から校種別・教科別採用に変更するとともに、校種間の併願を可能とするなど受験しやすい制度に改め、より専門性の高い人材を確保しました。
- ・ 初任者研修を採用1年目から3年間にわたり、職務内容に応じて段階的に行う「若手教員研修」に改めるとともに、若手教員を、東京事務所や他県の中高一貫教育校など高い教育効果を上げている学校および産業や福祉など本県の行政分野に派遣して資質向上を図りました。
- ・ 授業名人の模範授業を撮影したDVDを授業研究会や初任者研修等で活用したり、各高校内で「若手教員授業力向上塾」を年間を通して開催するなど、若手教員の授業力向上に努めました。
- ・ 各高校内に授業力向上チームを設置し、公開授業・授業研究会等を開催するとともに、生徒の授業わかる度調査を年2回実施のうえ結果を分析し、授業内容や進度等の改善を進めました。

- ・英語教員の指導力向上のため、NHK語学番組講師によるワークショップを開催し、NHKラジオ講座テキストの活用法や授業改善、音声トレーニングについて研修を行うとともに、米国ラトガース大学へ10人の教員を派遣し、英語コミュニケーション能力を高めました。

3 国体に向けた着実な競技力の向上

- ・平成30年の第73回国民体育大会に向けて、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めるため、小学・中学生491名、中学・高校生等583名を「チームふくい」強化選手に認定し、県外の強豪チームとの実戦練習等を充実しました。
- ・重点強化校、強化推進校の指定と併せて、オリンピック選手などを育てたトップレベルの指導者から直接指導を受ける機会を充実させるとともに、指導者養成のための中央講習会への参加支援や選手・指導者として活躍ができる教員をスポーツ特別選考制度により確保しました。
- ・国体のメイン会場となる福井運動公園について、将来の利活用を考慮し、新設する県営体育館や陸上競技場などの実施設計等を行ったほか、改修等を行うクレ射撃場、漕艇場・ボートハウスの実設計等を行いました。

II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・別紙「平成25年度 施策項目にかかる実施結果報告（教育庁）」のとおり

平成25年度 施策項目にかかる実施結果報告(教育庁)

(平成26年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	林 雅則
項 目		実 施 結 果	
1 日本のモデル「福井の教育」 ◇ 夢と希望を育てる学校 ○幼児教育の充実 ・幼児教育支援センターによる訪問指導の充実や、保育士と幼稚園教諭が小学校の指導内容等を学ぶ研修会などを開催し、保育所と幼稚園における幼児教育の向上を支援します。 ・県内5小学校区において、保育所・幼稚園の幼児に対する「アプローチカリキュラム」と小学1年生の「スタートカリキュラム」を共に実行し、幼児がスムーズに小学校生活に入れる仕組みを確立します。 ・子育てやしつけ等を学べるワークシートを活用した講座を保育所などのほか、3歳児健診時でも開催し、幼児期の保護者等の家庭教育力の向上を支援します。		[成果等] 目標を達成しました。 保育所・幼稚園の垣根を越えて、若手保育士等に子どもの接し方等に関する指導を行うため、アドバイザーが保育所・幼稚園の巡回訪問を実施したほか、小学校の指導内容等を学ぶ研修会を開催しました。 保育所・幼稚園と小学校の円滑な接続を進めるため、県内5小学校区において、遊びや体験を通した子どもの交流活動や小学校教諭による保育体験など、接続カリキュラムの実証研究を実施しました。 3歳児健診など多くの保護者が参加できる機会を捉えて出前家庭教育講座を開催し、グッド・トイや絵本による遊び方を伝え、また、子育てやしつけ等を気軽に学べるワークシートを活用した、保護者同士が話し合う場を設けました。	
(幼児教育アドバイスのための保育所・幼稚園巡回訪問回数 100回		(幼児教育アドバイスのための保育所・幼稚園巡回訪問回数 130回	
(小学校の指導内容を学ぶ研修会に参加する保育士、幼稚園教諭の数 800人		(小学校の指導内容を学ぶ研修会に参加する保育士、幼稚園教諭の数 840人	
(保護者等に対する家庭教育向上講座参加者数 600人		(保護者等に対する家庭教育向上講座参加者数 1,089人	

役職	教育長	氏名	林 雅則				
項目		実施結果					
<p>○中高一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 高志高校に併設する附属中学校の平成27年度の開校に向けて、6年間の一貫したカリキュラム編成や施設・設備等の検討を進め、夏以降に、順次、地域説明会を開催します。 高校教員が中学校に出向いて教科指導に加わるなど、スムーズに高校教育が進められるよう、連携型中高一貫教育の充実を図ります。 中・高の教員が相互に授業研究を行い、教え方の共通化や高校教育を先取りした指導の導入など中・高の接続を重視した授業改善を進めます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>カリキュラム編成などの検討を進めるとともに、8月から9月にかけて、県内5地区で説明会を開催し、児童・保護者合わせて869名が参加しました。また、必要となる講義室や技術室等の整備に向け、校舎改修の設計を行いました。</p> <p>高校教員が中学校に出向いて、高校で習う、国語、数学、英語の内容を指導しました。</p> <p>高校の授業研究会に中学教員（延べ126名）が、中学校の授業研究会に高校教員（延べ214名）が参加して互いに学び合い、高校入学後のつまずきやすい内容の指導方法などを検討し、授業改善に取り組みました。</p> <p>「中高授業接続ガイド」の改善事例数を68件に倍増させるとともに、中学校の5教科で授業改善事例を活用した高校教育の先取り学習などの公開授業を実施しました。</p>					
<p>○高校教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての高校の生徒を対象として、授業のわかる度を測定できる評価制度を導入し、それぞれの高校の生徒の学習状況に応じたわかりやすい授業への改善を進めます。 入学者の確保や進学等の実績において、更に伸ばせる力のある高校を「授業改善重点実施校」として指定し、学力向上センターを中心に教育環境の抜本的改善や学校全体としての授業力を高めるための集中的な支援を行います。 それぞれの生徒が希望する大学等に入学できるように応援するため、教育課程編成や使用する教材等の再検討を行い、目標にあわせた効果的な授業の改善に努めます。 <p>〔生徒から見た授業のわかる度指数（授業満足度）（平成24年度 66%）〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>6月と11月に全県立高校で実施した「授業わかる度調査」の結果分析を踏まえ、各学校において、ICT機器による教材提示、グループ学習の工夫等に取り組み、公開授業等で成果を検証しながら、わかりやすい授業への改善を進めました。</p> <p>学校独自の課題に対応する「授業改善重点実施校」に足羽高校、敦賀高校を指定し、足羽高校では、学び直しの学習を充実して基礎学力の向上を図るとともに、敦賀高校では、若手教員を中心に「学力向上対策室」を設置して教員の指導力向上を図りました。</p> <p>教員が、「難関大受験対策チーム」「重点国公立大受験対策チーム」を編成し、東大、京大などの難関大や地元国公立大等11大学の「個別大学入試対策学習アドバイス集」を作成して、ウェブ上の「高校生受験応援サイト」に掲載したほか、進路志望別の特別講座に加え、「土曜チャレンジセミナー」など難関大学対策講座を開催するなど、進路志望に対応した進学指導を充実しました。</p> <p>〔生徒から見た授業のわかる度指数（授業満足度）〕</p> <table border="1" data-bbox="1069 1747 1356 1825"> <tr> <td>第1回</td> <td>73.3%</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>75.3%</td> </tr> </table>		第1回	73.3%	第2回	75.3%
第1回	73.3%						
第2回	75.3%						

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>○職業教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業等への派遣研修による教員の授業力向上や生徒の校外実習の充実、難関資格取得指導の強化に加え、デュアルシステム導入の検討を行い、職業教育のレベルを高めます。 これからの福井の農業を担う人材を育成するため、農業現場での実習を強化し、農業分野の資格取得や全国大会へのチャレンジなどを応援し、農業教育の向上を図ります。 新しい時代の地域産業を担う人材を育てる総合化した産業教育を先導的に行えるよう、施設・設備の整備や円滑な学校運営体制の確立を図り、坂井総合産業高校（仮称）を平成26年4月に開校します。 <p>〔国家資格（日商簿記、販売士検定を含む）取得者数 延べ2,600人（平成24年度 2,499人）〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>専門教科教員7人が、企業や大学で専門技術を学んだほか、農業・工業高校の生徒63人が、企業現場等で10日間の実習を行うとともに、各高校で民間の高度技術者（延べ70名）による実技指導や、難関資格取得に向けた外部指導（延べ14資格）を行うなど、実践的な職業教育を進めました。</p> <p>農業高校の生徒372人が、生産現場や加工施設で実習を行うとともに、福井農林高校でポストコシヒカリに関する特別講義、若狭東高校で薬草栽培や植物工場装置の整備を行うなど、将来を見据えた農業教育への転換を図りました。</p> <p>坂井高校については、初年度定員を4学科280人とし、体育館の新築や、工業実習棟テクノラボの工事着手など、施設・設備の整備を行いました。また、中学生や地域住民に対し同校の特色を周知するとともに、地元企業を訪問のうえデュアルシステム導入に向けた協力を求めるなど、開校に向けた準備を着実に進めました。</p> <p>県内初の総合産業高校である奥越明成高校では、消防設備士等の難関資格の取得、奥越観光リーフレットの作成など、専門技術の向上や地元への貢献を進め、第1期生を社会へ送り出しました。</p> <p>〔国家資格（日商簿記、販売士検定含む）取得者数 延べ2,637人〕</p>	
<p>○英語教育の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学4年生から絵本やビデオ等を活用して、英語に慣れ親しむ活動を始めます。 中学校では、学習指導要領で求められる初歩的な英語を理解し、表現する能力に止まらず、高校英語を取り込んだワークシートを作成・活用するとともに、NHK教材を活用した指導方法を県下全域に広げて、よりコミュニケーションを重視した中学英語のレベルアップを図ります。 高校1年生で福井を題材としたオリジナル英語教材を活用した授業を行い、高校2年では100人の生徒を海外に派遣して聞ける話せる英語力の強化を図ります。 教員採用時のTOEIC受験などにより、教員全体の英語力を高めるほか、NHK英語番組講師によるワークショップや米国大学への研修を行い英語担当教員の指導力を向上します。 更に高いレベルでの英語教育を目指して、質の高いALTの確保や活用方法の改善、外部検定試験の活用などを検討します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>全ての小学4年生に、福井県版補助教材「グローバル・スタディーズ」(DVD)を活用して、毎月1回ずつ英語に慣れ親しむ活動を行い、英語での挨拶や身の回りの英語を聞いたり発音したりできるようになりました。</p> <p>中学校では、NHK教材を活用し、多様な表現方法を学びました。また、全ての中学3年生に、高校英語を取り込んだ「長文速読ワークシート」を活用した授業を始め、正確な速読力や高校で学ぶ表現や語彙を身に付けました。</p> <p>全ての県立高校で、本県独自の教材「福-イングリッシュ」をALTとのティームティーチングを中心に活用し、英語を活かした活動への意欲や表現力を高めました。また、米国へ生徒（100人）を語学研修に派遣するなど、授業外で英語に触れる機会を充実し、センター試験では全国トップレベルの成績を維持しました。</p> <p>英語教員の指導力向上のため、NHK語学番組講師によるワークショップを開催（2回）し、ラジオ講座テキストの活用法や授業改善、音声トレーニングについて研修を行うとともに、米国大学へ10人の教員を派遣し、英語コミュニケーション能力を高めました。</p> <p>ALTの資質向上に向け、ティームティーチングに関する講義・演習や、効果的な指導方法を学ぶ研修を実施しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>○サイエンス教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での「夏休み理科実験応援プロジェクト」の実施や中学生を対象とした「夏休み科学実験チャレンジ教室」の開催により、理科好きの子どもたちを増やします。 ・本県独自の「ふくい理数グランプリ」や「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の内容を充実し、中・高校生のサイエンスに対する知的探究心を高め、全国科学オリンピックや「科学の甲子園」など、全国コンテストに参加する生徒数をさらに増やします。 ・SSH実施校の相互連携や小・中学生への指導協力を進め、理系に強い福井の教育を再生します。 <p>〔全国科学オリンピック等の参加者数〕 200人 (平成24年度 196人) 課題研究発表会の参加者数 170人 (平成24年度 161人)</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内全ての小・中学校において、発展的な実験や自由研究を支援する「夏休み理科実験応援プロジェクト」を実施しました。また、「夏休み科学実験チャレンジ教室」には、定員を上回る363人の応募があり、新たな材料を使った太陽電池の製作と効果の測定実験を体験しました。</p> <p>「ふくい理数グランプリ」では、高校部門において、より高度な実験問題へのレベルアップを図ったほか、中学部門においては、前年を大きく上回る281チームが参加し、上位2チームが「第1回科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場し、理科実技部門で1位を獲得しました。</p> <p>「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」受賞生徒などが、南部先生から直接指導・助言をいただく「サイエンス交流会」を開催しました。</p> <p>SSH実施校では、若狭高校が県内外の高校生を集めて、「高校生環境・エネルギー学会」を開催したほか、藤島・高志・武生の各高校では、小・中学生対象のサイエンス講座を実施しました。</p> <p>〔全国科学オリンピック等の参加者数〕 239人 〔課題研究発表会の参加者数〕 190人</p>	
<p>○「白川文字学」を活用した漢字教育や古典学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県から漢字教育・漢字文化を全国へ発信するため、「白川静漢字教育賞」を創設し、独自の漢字教育を実践し普及している人等を表彰します。 ・本県独自の漢字教育指導者認定制度を設け、白川文字学の漢字指導者を増やし、県内全ての小学校で「白川文字学」を活用した公開授業を実施します。また、中学校や高校にも白川文字学を取り入れた授業や課外活動を広げていき、漢字教育のレベルアップを図ります。 ・小学校の学習に百人一首を取り入れ、早くから古典に親しみ、関心の高まる教育を進めます。 <p>〔県内小学校での「白川文字学」を活用した公開授業〕 200回 〔県内各地での漢字教育に関する研修会〕 17回</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本年度創設した「白川静漢字教育賞」には、全国26都府県から62名の応募があり、表彰式において、優秀事例の実践発表を行うとともに、ホームページ等により全国に発信しました。</p> <p>漢字指導者認定制度を開始し、66名（小学校53名、中学校5名、県立学校8名）を認定しました。</p> <p>県内全ての小学校で、白川文字学を活かした公開授業を行い、教員の指導力向上を図りました。また、白川文字学教育研究会で作成した「漢字教育素材集〈試案〉」等を活用し、中学校（4校）や高校（3校）でモデル授業を行いました。</p> <p>全ての小学校では百人一首を、中学校では漢詩や論語を読む活動を進めました。百人一首の歌意を記載した資料など学校で活用できる資料を配信し、併せて全小中学校に古典コーナーを設けました。また、冷泉貴実子氏による講演会「和歌に詠まれた四季」に国語教員など約300名が参加し、太陰暦や和歌に詠まれた季節、現代短歌との違いについて学び、児童生徒への指導に生かせる知識を身につけました。</p> <p>〔県内小学校での「白川文字学」を活用した公開授業〕 200回 〔県内各地での漢字教育に関する研修会〕 19回</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
○芸術教育の推進【部局連携】 <ul style="list-style-type: none"> 経験の少ない弦楽器を小学生から体験させるなど、小・中・高を通じた音楽教育の充実や、今年、福井で開催される「ミケランジェロ展」や「岡倉天心展」など、本物の美術作品に触れる機会を増やし、全国トップレベルの学力・体力に加え、芸術面での才能も伸ばします。 		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>音楽教育については、H23年度からの推進校（社北小・朝日中）に加え、H25年度から社中学校・雲浜小学校に合計28挺の弦楽器を貸与し、これらの学校や高校の推進校（藤島高・高志高・武生高・丹生高）に講師としてプロの演奏家を派遣しました。各校の弦楽クラブ等では小中学生66名、高校生72名が活動しており、推進校全体で講師派遣を230回実施しました。</p> <p>また、県文化振興事業団との協力により、バイオリニスト戸田弥生氏との面会や、NHK交響楽団四重奏団の雲浜小への訪問演奏とクリニックなど、子どもたちと一流の演奏家とが直接ふれあう機会を設けました。</p> <p>観光営業部と協力して見学者を募り、「ミケランジェロ展」は約1万2千人、「岡倉天心展」は6千人を超える児童・生徒が鑑賞しました。</p>	
◇ 次をめざす教育の充実 ○教員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> 教員の募集方法を小学校や中・高の各教科別に改め、専門性の高い指導力や幅広い教養を持つ、教員となるにふさわしい人材の確保に努めます。 教員採用後は、授業や生徒指導などの能力を高める初任者研修の充実とあわせて、若手教員を対象に、東京事務所や他県の高い教育効果をあげている学校、産業や福祉などの行政分野への派遣を行い、教育立県福井にふさわしい教員の資質を高めます。 都市に負けない、地方としての人材育成力を大きく飛躍させるため、公立学校の新しい時代の学校経営を考え、レベルの高い教員集団をリードできる校長、教頭などを任用する仕組みを検討します。 		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の採用方法を、従来の一括採用から校種別・教科別採用に変更するとともに、校種間の併願を可能とするなど、受験しやすい制度に改め、より専門性の高い人材を確保しました。</p> <p>初任者研修については、採用1年目から3年間にわたり、職務内容に合わせて段階的に行う「若手教員研修」に変更しました。また、若手教員13名を、東京事務所や、中高一貫教育などで高い教育効果を上げている他県の学校、更に本県の産業や福祉などの行政分野に派遣しました。</p> <p>管理職試験において、企業経営で豊かな経験のある方を評価者とし、集団で学校経営や教員指導に関する意見を交換することなど、任用の仕組みを改善しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>○教員の授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業名人を増やし、模範となる授業を年間を通してDVDにまとめて、「若手教員授業力向上塾」などを開催しながら、若手教員の授業力の向上を進めます。 ・校長、教頭などによる授業改善指導を強化するとともに、公開授業・授業研究会等の校内研修を活発化させて、学校ごとの授業改善体制を充実します。 ・優れた授業の進め方などを実践している教員の知恵と工夫を結集する「教育情報フォーラム」のシステムを、教員が使いやすく、授業改善に活用しやすい仕組みに改め、実用性を高めます。 ・学校を訪問して授業改善などを指導徹底する指導主事自らが、教員を指導する能力を高め、県内の学校全体の授業力が向上する仕組みを確立します。 <p>若手教員授業力向上塾の開催数 1校当たり10回</p> <p>学習指導プランの登録数 小学校2,400件、中学校1,200件、 高校 600件 (平成24年度 小学校1,874件、中学校1,009件、 高校 395件)</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>授業名人を、校種ごとの各教科や各地域ごとの配置なども考慮して、新たに27名を認定しました。 高校1年生が履修する12科目の授業名人等の模範授業を1年間撮影してDVDに編集・配付し、各学校における授業研究会や初任者研修等で活用しました。 また、普通科系高校17校において、若手教員の授業力向上を進めるため、年間を通して「若手教員授業力向上塾」を開催し、授業名人や指導力のある教員が指導・助言を行いました。</p> <p>普通科系の高校に「授業力向上チーム」を設置し、各校独自に授業わかる度調査の結果分析を踏まえた公開授業を開催して授業改善を進め、教員の授業スキルの向上など、校内の研修体制が充実しました。また、公開授業・授業研究会を76回開催したほか、全ての県立高校に指導主事訪問を131回実施し、校内研修指針を活用した研修を指導しました。</p> <p>「教育情報フォーラム」を検索機能や学習指導プラン一覧を付加したシステムに改善するとともに、予備校等で研修している教員が集めた最新情報の掲載を始めました。</p> <p>指導主事を集めた研究協議会を3回開催し、学校訪問時の教科ごとの指導ポイントや事前準備の仕方など、授業力向上に対する意見交換を行いました。</p> <p>若手教員授業力向上塾の開催数 1校当たり13.4回</p> <p>学習指導プランの登録数 小学校2,681件、中学校1,202件、高校 614件</p>	
<p>○高校教育改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの高校再編、文理探究科等の教育成果の検証に加え、今後の高校入学定員の考え方や分校、定通制のあり方、高校入試の改善などの検討に着手し、次の時代につながる高校教育のレベルアップを進めます。 		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>高校再編については、奥越・若狭・坂井地区において、企業等と連携し、総合産業教育の実施や整備を進めるとともに、若狭高校文理探究科では、英語の拠点校として予習型の新しい授業を開始しました。</p> <p>11月に定時制制度改革検討会議を開き、定時制の現状や夜間部の役割等について意見交換しました。また、少子化に対応した適正な学級編成や入学定員、分校および推薦入試のあり方などの検討を始めました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項 目		実 施 結 果	
<p>◇ 日本の教育センター福井</p> <p>○教育関係者が福井に学びにくる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 他県から派遣された教員向けに、「福井の教育を学ぶための年間研修プログラム」を作成し、全国からの教員の派遣受入れ体制を整備します。また、他県からの教育視察者に本県の優れた教育内容を紹介するDVDをバージョンアップするほか、教育視察メニューの開発を進めます。 福井の授業名人や教育指導者が他県からの招へいを受けて、本県の教育内容を紹介する仕組みを整え、全国で展開するとともに、大学研究者等と共同で、福井の学力・体力が全国トップクラスであることを学術的観点から解明した本を平成26年度に出版するための準備を行います。 <p>〔 県外からの学校視察受入人数 1,400名 (平成24年度 1,381名) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>他県から派遣された教員向けに、福井県の教育の全体像をつかめるようにした研修プログラムを作成するとともに、本年度は、茨城県をはじめ4県から6名の教員を受け入れました。6名は、公立小中学校に勤務し、主としてティーム・ティーチングで授業を行いながら、自らの目的に応じて、研修会や研究会などに主体的に参加するなど、プログラムに沿った研修を実施しました。</p> <p>3月に県内・県外派遣教員が出席して学力向上フォーラムを開催し、約160名の県民や教育関係者が参加しました。</p> <p>本県の教育紹介DVDについては、英語教育や理数教育および白川文字学など特徴的な教育を中心に収録し、わかりやすいものに改善しました。</p> <p>本県の授業名人等が、他県に出向いて講演し、4県で約1,500名の教育関係者に本県の教育内容を紹介しました。また、福井の教育力を明らかにした本については、大阪大学の志水教授の研究チームと共同調査や意見交換を行い、26年の秋を目途に出版の準備を進めました。</p> <p>〔 県外からの学校視察受入人数 1,576名 〕</p>	
<p>○青少年体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井の自然環境やふるさと伝統文化などを体験できる各青少年体験活動施設のモデルプログラムを県内外の学校に発信し、野外活動や宿泊体験などの拠点づくりを進めます。 また、あわら温泉を利用する教育旅行の増加に結び付けるなど、新しい体験プログラムを取り入れた、芦原青年の家の移転整備のための準備を進めます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>青少年体験活動施設のモデルプログラムについて、各青年の家が管内小学校、各地区の校長会に出向き、随時PRを行いました。また、近隣10府県にモデルプログラム集の利用を呼びかけました。</p> <p>8月には、全ての青年の家でSATOYAMA国際会議と連携して、長期宿泊体験活動（サマーチャレンジ教室）を実施しました。</p> <p>芦原青年の家では、新しい体験プログラム開発のための関係者への協力依頼（20件）を実施し、プログラムの開発（17件）を進めるとともに、あわら温泉利用者向け体験研修を設けました。</p> <p>芦原青年の家移転整備については、北潟湖の保全再生について調査学習ができる「サイエンスルーム」や、北潟湖をカヌーのメッカとする「カヌーハウス」など、周辺環境を活用した体験活動施設とするための基本設計を行いました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
○里地里山をフィールドに環境教育を充実【部局連携】 <ul style="list-style-type: none"> 「里地里山クラブ」を設置する小学校20校を指定し、子どもたちの活動を支援するとともに、I P S I 4 (S A T O Y A M A 国際会合) の開催に合わせ、「福井こども環境教育フォーラム」を開催し、福井の子どもの里地里山での活動を世界に発信します。 		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>学校近くの里地里山をフィールドに環境学習を進める「里地里山クラブ」を県内16市町の小学校20校に設置し、環境教育活動を支援しました。</p> <p>S A T O Y A M A 国際会議2013インふくいの一環として、9月8日に越前市文化センターで「福井こども環境教育フォーラム」を児童や一般市民約1000名の参加のもと開催し、里地里山クラブを設置する5校の小学校が北潟湖やかや田で行う環境保護活動などをステージ発表しました。</p>	
○いじめも不登校も体罰もない学習環境の推進 <ul style="list-style-type: none"> 全ての学校において、「いじめ対策委員会」の設置、「いじめ対策サポート班」の速やかな対応を進め、いじめ等問題行動の早期解消を図ります。 全ての小・中学校の教頭が参加する不登校対策研修会を定期的に開催し、中学校で増加する不登校の迅速な初期対応に努めます。 校長や教頭が、教員だけでなく生徒等から定期的に聴き取りなどを行うことにより、体罰のない部活動、生徒指導を徹底します。 <p>〔不登校者数〕</p> <p>小学校80名、中学校400名 (平成24年度)</p> <p>小学校80名、中学校402名)</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全ての学校に「いじめ対策委員会」を常設し、いじめ防止等の指導方策について協議するとともに、いじめが起きた場合には、速やかに「いじめ対応サポート班」を組織して対応し、早期解消を図りました。</p> <p>いじめや不登校のない学校に向け、教員による支援、助言の充実を図るため、小・中学校教頭を対象にして7月と1月に学識経験者による不登校対策研修会を開催し、小中学校間の連携など未然防止の強化を進めました。</p> <p>学校では話せない心の悩みの解消を図るため、「24時間電話相談窓口」を周知するカードを県内すべての児童・生徒に配付しました。</p> <p>いじめ防止対策推進法の施行に伴い、「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもの教育やいじめ防止等の具体的施策、組織の設置などを含めた本県独自の基本方針を策定し、全県的にいじめ対策の体制を整えました。</p> <p>体罰防止については、校長や教頭が生徒からの聴き取りを継続しているほか、部活動の巡回を行い実態把握に努めました。また、教員への研修を行い、体罰の根絶に向けて取り組みました。</p> <p>〔不登校者数〕 小学校79名 中学校398名</p>	
○特別支援教育の推進【部局連携】 <ul style="list-style-type: none"> 発達障害等が認められる児童・生徒に、小学校入学後早い時期から支援を進めるため、就学前に保護者などへの理解普及を図るとともに、小・中・高の移行期の円滑な連携体制を整えます。また、高校での発達障害等のある生徒の就労に向けた支援を充実します。 発達障害など特別な支援を必要とする生徒に対して、専門的な教員や施設・設備が整った教育環境の中で、障害の内容に応じた教育が行えるよう、特別支援学校の高等部の受入体制の充実を検討します。 		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県下全ての5歳児の保護者へ、発達障害等への理解や支援の必要性を促すリーフレットを配付するとともに、保護者向けの研修会を県内5箇所で開催し、計247人が参加しました。</p> <p>「移行支援ガイドライン」等を活用した支援を充実するため、教員や保育士、福祉施設職員等計1,146人を対象に研修会を県内13箇所で開催したほか、各地区の協議会における支援体制を強化しました。</p> <p>奥越特別支援学校において、高等部の生徒が実習で作ったパンをカフェで提供できるようにして、専門家の指導により障害の特性を考慮した作業学習と接客実習を先導的に進めました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>2 新しい方向をひらく農林水産業 ◇ 食卓に「福井の食」(地産地消、地産外商) ○毎日おいしい地場産給食の実現 【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養学、調理学の専門家、レストランの調理師等を学校や給食センターに派遣し、食材の調査・給食の試食など客観的な評価を行い、おいしい給食の提供を支援します。 ・本県の農産物を活用した学校給食レシピを「ふるさと知事ネットワーク」の各県に紹介します。また、11月の「ふくい味の週間」などを中心に、地場産食材を使用した給食を保護者や地域の方にも味わってもらいます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内の栄養教諭が研究・開発した献立や、8月の「学校給食調理コンテスト」の献立等をレシピ集にまとめ、地場産物を活用したおいしい給食を県内外に発信しました。</p> <p>11月のふくい味の週間で「学校給食レストラン」を開設したほか、9月と1月に県庁食堂において、給食で人気の高い地場産物を活用したメニューを提供し、好評を得ました。</p> <p>レストランシェフによる給食の試食を通じて助言を受け、おいしい給食の実施に向けて、栄養教諭と共働し、地場産食材を活用した給食献立(10献立)を開発しました。</p> <p>嶺北、嶺南(鯖江市河和田小5年43名、高浜町青郷小4年36名)の児童がお互いの特産物や郷土料理の紹介などの交流学习を行い、食への興味関心を高めました。</p> <p>本県の農産物を活用した学校給食レシピを「ふるさと知事ネットワーク」参加13県に紹介するとともに、参加県の学校給食を本県の児童生徒に提供しました。</p>	
<p>3 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化 ◇ 飛躍する福井のスポーツ ○スポーツ競技力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年の福井国体に向けて、今年、東京で開催される国体での10位台を確保するとともに、中学校・高校、クラブチームなどに対し、オリンピック経験者などのトップレベルの指導者から直接指導を受ける機会を充実し、練習の質を高めて競技力の向上をさらに加速させます。 ・本県ゆかりのトップアスリートが県内を拠点に、競技選手や指導者として活躍できるよう、教員の特別選考制度や県内企業、団体等での受入体制の充実を図ります。 		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>東京国体の天皇杯順位は昨年と同じ24位でしたが、総合得点の7割をあげた少年種別の特に高校生の活躍(ホッケー少年男子:優勝、水泳少年女子:3位)があり、昨年を22点上回る過去最高の938点を獲得しました。</p> <p>ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めるため、小・中学生491名、中学・高校生等583名を「チームふくい」強化選手に認定し、県外の強豪チームとの実戦練習等(延べ379日)を充実しました。</p> <p>学校単位での強化拠点を構築するため、重点強化校(中学校5競技7部、高校19競技33部)、強化推進校(中学校17競技68部、高校25競技60部)の指定を行い、オリンピック選手などを育てたトップレベルの指導者から直接指導を受ける機会(延べ128日)を充実し、少年種別の競技力向上につなげました。</p> <p>選手や指導者として活躍ができる教員をスポーツ特別選考制度(5競技5名採用)により確保し、適正に配置しました。</p>	
<p>〔国体総合成績 10位台〕 (平成24年度 24位)</p>		<p>〔国体総合成績 24位〕</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>○1 県民1スポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力日本一の子どもたちの学校体育・運動部活動の充実をはじめ、誰もがいつでもスポーツに参加できる環境をつくることなどを内容とする、「福井県スポーツ推進計画」を、福井国体の正式内定時期にあわせて作成し、本格的にスタートさせます。 ・運動する機会の減る冬季でも行なえるバウンドテニスや3B体操などのインドアスポーツを県民に広め、年間を通じて、子どもから高齢者・障害者まであらゆる人が参加できるスポーツ体験の機会を提供します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県民誰もがスポーツに親しめる環境を整備していくため、今後10年間のスポーツ推進の方向性を示しながら、学校体育やトップアスリートの育成など、国体までの5年間の施策を盛り込んだ「福井県スポーツ推進計画」を作成しました。</p> <p>全小学校において「アクティブワン活動」を行い、放課後にスティックリングや伝承遊び等を通して運動する時間を確保するとともに、小学校50校に指導者を派遣し、運動が好きな子の育成を推進しました。</p> <p>学校体育・運動部活動の指導者を対象とした指導力向上の研修会を開催し、授業や部活動の充実を図りました。</p> <p>県民の運動習慣の定着を推進するため、保育士や企業の担当者など運動を指導する人に対して、担当者が集まる機会を通じ、計4回の研修会を開催したほか、地域のスポーツクラブ指導者を対象に計2回の研修会を開催しました。</p> <p>年間を通じてスポーツ体験の機会を提供するため、12月にニュースポーツの体験フェスタを開催し、冬季における県民のスポーツ参加を促進しました。</p>	
<p>○県有体育施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体に向けた競技力向上と県民のスポーツ参加を促すため、福井国体のメイン会場となる福井運動公園をはじめ、クレー射撃場、久々子湖漕艇場などの県有体育施設の整備を進めます。また、選手強化に必要な競技用具や老朽化により危険が伴う備品の整備を進めます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>国体のメイン会場となる福井運動公園について、将来の利活用を考慮し、新設する県営体育館や陸上競技場などの実施設計等を行ったほか、改修等を行うクレー射撃場、漕艇場・ボートハウスの実設計等を行いました。</p> <p>選手の競技力を高めるため、カヌー9艇や体操器具のマット、エアライフル5丁等、7競技の競技備品を整備しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>◇ 生活に福井の文化</p> <p>○国宝・重要文化財、県文化財の指定の拡充・推進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財の国指定に向けた「祭り・行事」の実地調査を行います。また、本県に伝わる越前焼や漆器、和紙などの伝統的工芸・民俗技術の文化財指定に向けた準備に着手します。 ・県内で発掘された埋蔵文化財を通して、福井の歴史等を子どもたちに知ってもらうため、夏休みに体験学習会を開催します。また、広く県民を対象として、遺跡の発掘体験などを組み込んだ考古学入門講座を開催します。 <p>〔 国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 8件 〕 (平成15年～22年度の平均 7件/年)</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>国指定に向けた調査では、無形民俗分野において、26年度の報告書刊行に向け、「祭り・行事」の実地調査を実施しました。また、名勝分野においては、国指定に向け、龍泉寺庭園（小浜市）の特定調査を実施し、報告書を作成しました。</p> <p>県指定に向けた調査では、平野氏庭園（勝山市）の測量調査を実施しました。</p> <p>国指定では、「荻野家住宅」（若狭町）が、重要文化財（建造物）に指定され、「越前和紙の製作用具及び製品」が、重要有形民俗文化財に指定されました。</p> <p>県指定では、平成19年度以降実施してきた名勝庭園や白山信仰関係の調査の中から、国調査官の招聘や県文化財保護審議会委員の現地調査などを経て、今年度新たに8件の文化財を指定しました。</p> <p>埋蔵文化財の活用については、考古学体験教室（約80名）や考古学講座（延べ約100名）を開催しました。</p> <p>〔 国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 10件 〕</p>	
<p>○「福井ふるさと文学館（仮称）」整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井ゆかりの作家の直筆原稿や初版本、初出誌などの貴重資料の収集に努めるとともに、ふるさと文学に触れ、親しめる展示施設の整備を進め、「福井ふるさと文学館（仮称）」の平成26年度開設準備を行います。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>平成25年8月に福井ふるさと文学館（仮称）基本設計をまとめ、平成26年1月から建築改修工事に着手しました。</p> <p>県内外の文学関係者を訪問して文学館整備への協力関係づくりを進めるとともに、資料収集については、高見順氏、水上勉氏など福井ゆかりの作家の原稿や万年筆、取材ノートなどの愛用品等の貴重資料588点を収集しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>○こども歴史文化館の参加・体験機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録博物館として、全国から貴重資料や子どもたちが理解しやすい実物資料の収集を進め、企画展示等で紹介するほか、展示に合わせ百人一首などの体験教室を実施し、子どもたちが参加体験しながら福井の歴史や文化が理解できるよう工夫します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>こども歴史文化館の来館者数</p> <p style="text-align: center;">37,000人</p> <p>(平成24年度 36,364人)</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">チャレンジ目標 38,000人</p> </div>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>奇術師・松旭齋天一の資料32点や、本県出身の実業家・松下秀雄氏が収集した海外の蓄音機150台など、寄贈や寄託等により貴重資料の収集を進めました。</p> <p>収集資料を活用した「ちはやふる かるた王国ふくい展」などの特集展示や、天一資料の寄託記念展、料理・茶道・百人一首・紙芝居等の外部人材を活用した体験教室の開催により、5万人を超える来館者数を達成しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>こども歴史文化館の来館者数</p> <p style="text-align: right;">51,753人</p> </div>	
<p>4 すぐれた医療と支えあいの福祉</p> <p>◇ 「こころとからだの健康」づくり</p> <p>○子どもの目と歯の健康づくりの推進</p> <p>【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近視予防のため、全ての小・中学校で、野外での活動や休み時間に遠くを眺める活動を充実するほか、学校と家庭が一緒になって、近視予防につながる規則正しい生活の定着を図ります。 むし歯予防のため、全ての小学校で低学年対象の歯みがき教室を実施し、正しい歯みがき習慣の定着を図ります。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>むし歯のない小学生の割合</p> <p style="text-align: right;">35%</p> <p>(平成24年度 33.8%)</p> </div>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>子どもの目の健康プロジェクトとして、すべての小中学校で教室に3か条を掲示して、校内放送等による呼びかけを行い、児童生徒の意識を高めたほか、目を休める「リフレッシュタイム」の設定や、10月の「目の愛護デー」に合わせた保健指導を行いました。</p> <p>9月に小学校1、2年生、11月に平成26年度の小学校入学予定児に対し、正しい姿勢やテレビ視聴のきまりなど、目を大切にする生活チェックを行う健康カードを配布し、保護者と一緒に近視予防につながる生活習慣の定着を図りました。</p> <p>子どもの歯の健康プロジェクトとして、すべての小学校の1、2年生を対象に歯垢染色剤を用いて歯みがき教室を実施するとともに、その保護者にリーフレットを配布し、正しい歯みがき習慣の定着を図りました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>むし歯のない小学生の割合</p> <p style="text-align: right;">36.3%</p> </div>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>5 若者のチャレンジと女性の活躍を応援</p> <p>◇ 子どもがたくさん、家族を応援</p> <p>○「放課後子どもクラブ」への支援</p> <p>・未就学児の保護者も含めた独自の利用ニーズ調査を実施し、これに基づき市町を指導して、小学6年生までの希望する児童を受け入れることのできる「放課後子どもクラブ」を整備するよう市町を支援します。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>9月に県独自の放課後児童クラブの利用ニーズ調査票を市町に提示し、市町の調査に併せて保護者のニーズを把握することにより支援策を検討していきます。</p> <p>地域の実情に応じて、市町が行う県内382箇所の「放課後子どもクラブ」の運営を支援し、文化活動や読書・宿題等を行うことができる活動場所を確保しました。</p> <p>小学4年生以上の児童受け入れを行う放課後児童クラブへの県独自の追加支援を実施することで市町の負担軽減を行い、保護者の利用ニーズに応じた環境の整備を支援していきます。</p>	
<p>6 日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）</p> <p>◇ 治安実感プログラム</p> <p>○通学路交通安全の推進</p> <p>・学校、道路管理者、警察と協力して、通学路の安全を確認する合同点検を実施し、見守り活動の強化、ガードレールや横断歩道の整備などの安全対策を進めます。</p> <p>・子どもたちが、道路の安全な横断方法や自転車の正しい乗り方を習得し、交通安全に関する正しい知識を深めるための交通安全教室を開催します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>関係者と協力し、通学路が変更になった箇所の安全や安全対策の進捗状況を確認する合同点検を県内567箇所で実施するとともに、見守り活動の強化や安全マップの作成・配布、横断歩道の整備など安全対策を進めました。</p> <p>通学路交通安全対策連絡会議において、各市町・関係機関における安全対策の実施状況を確認し、支障物の点検・撤去を行ったほか、冬季の通学路での事故防止に向けて積雪時の安全点検の実施および通学路の除雪対策を確認しました。</p> <p>4～5月には全ての小・中学校および県立学校において、子どもたちが道路の安全な横断方法や自転車の正しい乗り方を習得し、交通安全に関する正しい知識を深めるための交通安全教室を開催しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則												
項目		実施結果													
<p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応</p> <p>○防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県独自に作成した「学校防災マニュアル」を活用して、学校の防災体制の見直しを進めます。また、児童・生徒に災害に対する備えや対処行動等を学習させ、自らの命を自ら守る能力を身につけるための防災教育の授業を行います。 ・気象台職員や土木の専門家からなる「学校防災アドバイザー」を学校へ派遣し、防災体制の整備、防災教育の推進を支援します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>地震発生時の対応に加えて、津波などの災害時における避難場所や避難経路を含む学校の防災体制の見直しを進めました。</p> <p>学校防災推進期間を中心に、児童・生徒に災害に対する備えや対処行動等を学習させ、自らの命を自ら守る能力を身につけるための、地震や津波災害に対応した避難訓練、地震・津波のメカニズムなどを学ぶ防災教育の授業を行ったほか、各学校の防災担当教員を対象とした「防災教室講習会」を開催（352名参加）し、学校における防災教育の充実を図りました。</p> <p>津波被害が想定される学校（10校）に緊急地震速報装置を設置し、装置を活用した避難訓練を実施しました。避難訓練には気象台職員や土木の専門家からなる「学校防災アドバイザー」を学校（27校）へ派遣し、防災マニュアルの点検、避難経路の安全確認、児童・生徒への避難指導など学校における防災体制の整備を支援しました。</p>													
<p>○子どもを守る耐震化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習の場、地域住民の応急避難場所となる小・中学校施設や県立学校施設の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。 <p>〔耐震化率〕</p> <table border="0"> <tr> <td>小・中学校施設（25年度末）</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>（平成24年度末）</td> <td>84.7%</td> </tr> <tr> <td>県立学校施設（25年度末）</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>（平成24年度末）</td> <td>90.7%</td> </tr> </table>		小・中学校施設（25年度末）	88%	（平成24年度末）	84.7%	県立学校施設（25年度末）	93%	（平成24年度末）	90.7%	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校施設の耐震化については、県独自の補助制度による耐震補強工事に係る市町の負担軽減のほか、耐震化促進の市町への働きかけを強め、国の補正予算なども利用した耐震補強工事を進めました。（54棟）</p> <p>県立学校施設についても、計画的な耐震化を進めました。（体育館や管理棟など10棟）</p> <p>〔耐震化率〕</p> <table border="0"> <tr> <td>小・中学校施設</td> <td>89.8%</td> </tr> <tr> <td>県立学校施設</td> <td>93.1%</td> </tr> </table>		小・中学校施設	89.8%	県立学校施設	93.1%
小・中学校施設（25年度末）	88%														
（平成24年度末）	84.7%														
県立学校施設（25年度末）	93%														
（平成24年度末）	90.7%														
小・中学校施設	89.8%														
県立学校施設	93.1%														